



1 石段を勢いよく駆け上がるドランジャー 2・3 若衆が掛け声とともに太鼓を力強く叩きます 4 たくさんの見物客が訪れた会場 5・6 竹迫観音祭のために子どもたちは横笛を一生懸命練習しました 7 準備や進行も地元住民の手で行ない、受け継がれてきた観音祭 8 33年に一度掲げられるのぼり 9 奉納後は観音堂を下りて各地区に戻っていきます 10 勝負の行方に一喜一憂 11 コルクを詰めて的を狙う射的は今も昔も子どもたちに大人気

7月14日、竹迫地区で竹迫観音祭が行なわれました。農業振興や交通安全などを願い約800年前から行なわれている祭りで、市指定文化財にも登録されています。

この祭りに欠かせないのが、太鼓を載せた木製の台車、ドランジャー。法被姿の若衆が太鼓を叩きながら引き、地元の子どもたちがその周りで横笛を奏ります。出店が並び、子どもたちや家族連れで賑わう通りを練り歩く姿は勇壮。上町、横町、下町それぞれの区から引かれてきた3台のドランジャーが各区の中間地点で激しくぶつかり合い、観客からは大きな歓声が上がりました。

その後、3台連なつて観音堂へ。若衆たちの力で表紙の石段を上り、お堂へ奉納されました。見物客はドランジャーを引く人たちの熱気あふれる姿に見入っていました。

7月14日、竹迫地区で